

## 3 諏訪地域の発展方向

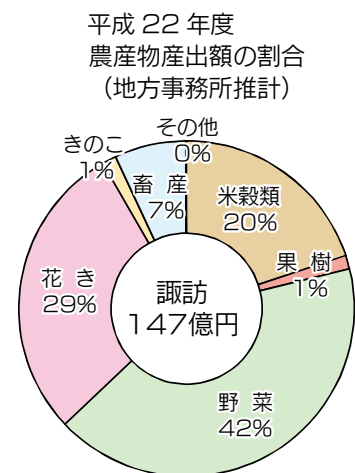
岡谷市・諏訪市・茅野市・下諏訪町・富士見町・原村

### ～ 地の利を活かし 人を育む 豊かで活力あふれる諏訪の農業・農村 ～

#### 地域農業・農村の概要

##### ■ 農業・農村の特色 ■

- 諏訪地域は、標高 1,200m に至るハヶ岳西麓地域では、夏期冷涼な気象条件を活かして、セルリー等の野菜やキク、カーネーション、トルコギキョウ等の花き生産が盛んです。また、標高 760m の諏訪湖周辺地域では、水稻を基幹にトマト、きゅうり等の果菜類や花きの施設園芸が営まれています。
- U・Iターン等による新規就農者の定着や、集落営農組織による活動も進んでいますが、高齢化の進行やリタイアもあり、多様な担い手の確保が必要です。
- エコファーマーの取得を組織・団体で行うなど、農業者は高い意識を持って環境にやさしい農業を実践しています。
- 農産物の高付加価値化や消費者の地域農業への理解増進のため、6次産業化や地産地消への取組の推進が必要です。
- 先人が開削した歴史的な農業用水路が未整備の状況にあります。



##### ■ めざす将来ビジョン ■

- 立地条件の活用と高い技術による活力ある産地形成
  - ・ハヶ岳西麓地域では、基盤整備された耕地、夏期冷涼な気候、大きな気温の日較差、豊富な日照量等の条件のもと、高い生産技術と整備されたかん水施設の活用により、高品質な野菜や花きが、消費地から信頼されるブランドとして安定して生産・出荷されています。また、水稻、そば等土地利用型作物は大規模経営体や集落営農組織が農地を集積し、満々と水を溜めたため池、用水路を活用して効率的な生産を展開しています。
  - ・諏訪湖周辺地域では、都市部近郊において水や農地を効率的に利用しながら、水稻生産のほか果菜類や花きの施設が団地化され集約型の園芸農業が営まれているとともに、都市部や温泉に近接した立地条件を活かし、消費者との顔の見える関係を築いています。
- 人・農地プランの担い手経営体を主体とした担い手の確保・育成
  - ・担い手経営体が、優れた経営感覚で立地条件、地域資源を活かし、効率的で儲かる営農を展開し、新規就農者の育成や雇用の場として地域の活性化にも貢献しています。
  - ・U・Iターンによる新規就農者、集落営農組織、女性農業者など多様な担い手が、それぞれの特徴を活かした営農を展開しています。
- 諏訪湖と共生する環境にやさしい農業の実践
  - ・諏訪湖の環境保全のため関係機関・団体挙げての取組が進む中で、消費者の安全・安心志向に応え、生産コストを削減しながら環境にやさしい農業を実践しています。
- 他産業との連携による付加価値向上と地産地消による農業への理解醸成
  - ・商・工・観光業等他産業との連携や農産加工、6次産業化への取組により、付加価値の高い商品を生産し販売しています。
  - ・農作業体験や多彩で魅力ある品揃えの農産物直売所を通じて、消費者や観光客が地域の農産物や農業に理解を深め、共感を抱いています。
- 活力に満ち、こころやすらぐ美しい農村づくり
  - ・集落の強い絆によって組織的な活動が展開され、古代から続く伝統文化や美しい農村景観が維持され、来訪者にも共感を得ています。また、自然エネルギーや地域の資源が有効に活用され、豪雨、獣害等の自然からの脅威がなく持続的な暮らしが営まれています。



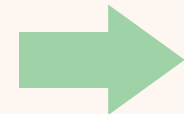
## 重点的な取組方向

### 重点戦略1 高品質・安定生産による信州諏訪ブランド構築 対象地域：八ヶ岳西麓地域

八ヶ岳西麓地域では、恵まれた気象条件を活かしてセルリー、キク、カーネーション、トルコギキョウなどの基幹品目を中心に生産が行われ、高い品質と安定出荷により消費地からも高い評価を受けているほか、集落営農組織によるそばの生産が拡大しています。

今後、気象変動や病害虫などを克服し、高い品質と安定生産を維持するとともに、農業用水の安定的な確保や農地の有効活用を図ることが重要となっています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□セルリーの出荷数量	7,759 t	9,000 t
□トルコギキョウの出荷本数	2,186 千本	2,250 千本
□農業用水の安定供給が確保される農地面積	220ha	830ha



- #### 推進方策
- セルリー等の夏期高温対策の推進
  - トルコギキョウの生産拡大とキク産地の再構築
  - そばの生産安定と新品種導入推進
  - 「おいしい信州ふーど（風土）」としてPR・発信強化
  - 農業水利施設等の計画的な整備・更新



【キク生産ほ場】

### 重点戦略2 効率的な水稻生産と地域特産品目の振興 対象地域：諏訪湖周辺地域

諏訪湖周辺地域では、大規模な稲作経営と果菜類や花き等の集約的な施設園芸が営まれているほか、中山間地域や都市部などでは小規模ながら特産的な品目が生産されています。

今後、農地・水を有効に活用しながら、効率的な生産や地域特産物の生産を拡大することが重要となっています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□稲作大規模経営体への農地利用集積面積	147ha	195ha
□遊休農地の再生・活用面積（累計）	16ha	50ha



- #### 推進方策
- 農地中間管理事業等を活用した水田の利用集積による稲作経営の効率化と適期収穫による良質米生産の推進
  - 遊休ハウスを活用した施設園芸の新規就農者確保
  - 流通・販売・利用の拡大による地域特産物の生産拡大
  - 地域特産物の導入による遊休農地の解消
  - りんご新わい化栽培、地域オリジナル品種の拡大
  - 農地や水の保全及び効率的な利用の推進



【水稻生産ほ場】

### 重点戦略3 人・農地プランの担い手経営体を主体とした担い手の確保・育成

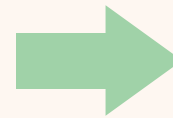
農業者の高齢化、リタイアの増加が進行する中、新規就農者、定年帰農者、女性農業者、集落営農組織など多様な担い手の確保・育成が必要となっています。

特に、諏訪地域の自然環境、農業生産に適した立地条件などに魅力を感じて新規に参入してくる者も多く、受け入れ、定着、資質向上のための支援が必要です。

また、農産物価格低迷、コスト上昇等収益構造の好転が望めない中、地域の優位性や資源を活用し効率的な経営を実践する、経営感覚に優れた経営体の育成が必要です。

#### 達成指標

	現状 (H22)	目標 (H29)
□ 40歳未満の新規就農者数 (単年度)	10人	19人
□ 人・農地プランに位置付けられた担い手経営体数	0経営体	230経営体



#### 推進方策

- 人・農地プランの実行及び関連支援策の推進
- 相談活動、里親研修制度等活用した新規就農者の確保
- 各種セミナー、巡回指導による資質の向上
- 円滑な経営継承支援の仕組みづくり支援
- 集落営農組織の園芸作物導入支援
- 企業的経営志向への誘導とセミナーによる資質の向上
- 女性の農業経営や地域活動への参画促進



【新規就農者セミナー】

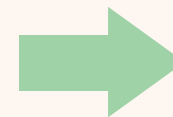
### 重点戦略4 諏訪湖と共生する環境にやさしい農業の実践

食の安全・安心に対する消費者の関心の高まりへの対応が必要となっています。

特に、諏訪地域においては諏訪湖の環境保全対策に関係機関・団体一体となって取り組んでおり、農業生産面においても環境に配慮した取組が不可欠です。

#### 達成指標

	現状 (H22)	目標 (H29)
□ エコファーマー累積新規認定数	1,030人	1,300人
□ 信州の環境にやさしい農産物認証面積	68ha	110ha
□ 環境保全型農業直接支援対策面積	0ha	42ha



#### 推進方策

- エコファーマー認定制度への組織や農産物直売所単位での取組の推進
- 信州の環境にやさしい農産物認証への取組支援
- 環境保全型農業直接支援対策への取組支援
- 花きオリジナル肥料を用いた減肥の取組の拡大
- 施肥量縮減技術の検討・普及
- 地域有機物資源の活用推進
- GAPの導入支援



【セルリー畦内施肥機】



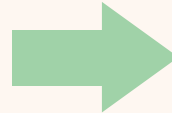
### 重点戦略5 他産業との連携等による付加価値向上と地産地消による農業理解の醸成

商・工・観光など他産業との連携や6次産業化を進めて、農産物の付加価値向上や販路の拡大を進める必要があります。

また、農業や農産物への正しい理解と共感を得るため、地産地消等の取組により生産者と消費者の顔の見える関係づくりを進めることが必要です。

#### 達成指標

	現状 (H22)	目標 (H29)
□六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数	0 件	5 件
□農産物直売所の販売額	17 億円	19 億円



#### 推進方策

- 他産業との連携や加工による付加価値向上、販路開拓への支援
- 学校給食への地元農産物の供給拡大
- 農作業体験や対面販売など、消費者や観光客との交流による顔の見える関係づくり支援
- 地域特産品や新品目開発による農産物直売所の魅力向上支援
- 「おいしい信州ふード（風土）」を始めとする地元農産物のPR、地産地消による消費者の理解増進・共感醸成



【農産物直売所】

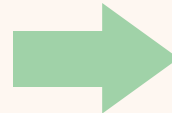
### 重点戦略6 活気に満ち、こころやすらぐ美しい農村づくり

農業者の減少や高齢化により農村の活力が低下している現状に対して、集落等が地域ぐるみで一体となって活動することによって、美しい農村景観等を維持することが重要となっています。

また、再生可能エネルギーや農村資源を有効に活用するとともに、豪雨や鳥獣害等、自然からの脅威を取り除くことが必要となっています。

#### 達成指標

	現状 (H22)	目標 (H29)
□集落等が地域ぐるみで取り組む保全活動面積	2,012ha	2,536ha
□農業用水を活用した小水力発電箇所数	0 箇所	1 箇所
□野生鳥獣による農作物被害額	6,067 万円	4,200 万円
□農地等の安全が確保された面積	9ha	15ha



#### 推進方策

- 美しい農村の維持・創造のための多面的機能支払、中山間地域農業直接支払等による共同活動の推進
- 景観や生態系に配慮した水路等の施設整備
- 自然エネルギーや農村資源の利活用の促進
- 侵入防止柵設置や広域的な鳥獣被害防止対策の推進
- 老朽化した水路やため池の決壊等の被害を防止する施設の整備



【秋の田園風景：わらによう】